赤い羽根共同募金

令和2年度　共同募金実績内訳

清水町内会	5,950世帯	1,784,900円
清水地区民生委員・募金活動	357件	830,830円
清水地区民生児童委員	51名分	314,000円
清水地区社協関係分		51,165円
合　計		2,980,895円

募金ありがとうございました

協力会員募集のお知らせ

清水地区社会福祉協議会は、ボランティアに関心のある方、地域助け合い活動に参加してみようと思われる方を募集しています。楽しく、明るく、ボランティア活動で人助けをしませんか？

いま《地域のつながり》があらためて注目されています。

地域の中で《こんなこと》必要だと思いませんか？

お問い合わせ　清水地区社会福祉協議会援護部長　門屋　淳

地域包括支援センターとは

※高齢者の方々の身近な相談窓口です

名　称	松山市地域包括支援センター味酒・清水
住　所	松山市清水町3丁目3-15
受付日時	月～土（8時30分～17時15分）
電　話	(089) 911-1135
休　日	日、祝祭日、12月30日～1月3日

◇高齢者の方が、住み慣れた環境の中で暮らし続けるための相談窓口です。
◇健康、医療、介護などなんでもご相談ください。
◇相談内容に関しては、秘密を堅く守ります。
◇相談は無料です。

ふれあい教室　会員募集!!

		火			水	金		備考
午前	講座名	フオークダンス			茶道	コーラス	書道	＊教室の入会資格は六十歳以上です。会費は一ヶ月分です。祝日はお休みです。教室によっては、定員一杯の場合もありますのでお問い合わせください。
	時間	10:00～11:30			10:00～12:00	10:00～11:30	10:00～11:30	
	開催週	第1・3			第1・3	第1・2・3・4	第1・2・3	
	会費	￥1,000			お菓子代￥400 ￥1,000	￥1,000	本代￥700 ￥1,000	
午後	講座名	カラオケ	フラダンス	太極拳	絵手紙	英会話		
	時間	13:30～15:30	15:30～16:30	15:30～16:30	13:30～15:30	13:30～15:00		
	開催週	第1・2・3	第1・3	第1・2・3	第2・4	第1・3		
	会費	￥1,000	￥1,000	￥1,000	￥1,000	￥1,000		

お問い合わせは　「清水地区社会福祉協議会」　TEL 916-9179

しみず祭り中止のお知らせ

第19回しみず祭りは新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、理事会で検討の結果、中止することになりました。

来年度は、第20回の記念の回となります。

コロナウイルスに万全の対策を立て、盛大に実施できるよう期待しています。

編集後記

例年より早い花の便り、自然界はすっかり春です。

コロナ禍になって一年余り、非日常の生活から、社会が少しずつ動き始めました。

三つの顔をもつ感染症（病気・不安・差別）に一人一人が予防に気を配り、負のスパイラルを断ち切りましょう。

そして健康で、楽しい日々を送る為に、素敵な仲間づくりに出かけてみませんか。

今回と次回で「ふれあい教室」の紹介をさせて頂きます。

啓発調査部長　稲見　敦子

第64号 しみずの福祉だより

編集・発行　清水地区社会福祉協議会　会長 横山 定雄

清水の現状（令和3年3月1日現在）

人口	22,550人
65歳以上	5,788人
人口比率	25.7%
世帯数	13,139世帯
一世帯平均	1.7人

（住民基本台帳による）

友遊しみずの活動

友遊しみずは寝たきり・認知症、介護予防を目的とした元気な高齢者が集まり、ゲームや脳トレ、ストレッチ体操、看護師による健康管理などを行っています。現在はコロナ禍のため、活動が短縮されていますが、感染予防に気を配りながら利用者の方々は楽しく参加しています。自宅にこもっていると何かと不健康になってしまいます。

こんな時だからこそ、友遊しみずに来て一緒に楽しい時間を過ごし、健康寿命を延ばしませんか？元気な高齢者の皆さまの参加をお待ちしております。

連絡先：いきがい交流センターしみず　923-1355
活動援助員　上森睦美

『ささえ合う　福祉のまちや　清水の輪』

『やさしい清水の町』　福祉体験学習（5年生）

5年生の総合的な学習の時間「やさしい清水の町」の学習では、いきがい交流センターの協力のもと、ガイドヘルプ体験・車椅子体験・高齢者疑似体験などを行いました。

子どもたちは実際に体験することで、相手の立場にたって考えたり行動したりする大切さに気付き「清水のボランティアリーダー」として挨拶や声かけ、ごみ拾いなど身の回りの小さなこと、自分でできる事を進んで行い、清水の町に「やさしさの輪」を広げようと活動しています。

少しの段差でも、早めに声をかけることが大切だと分りました。地域でも見かけたら、進んで手伝いたいです。

段差がある時は、乗っている方が安心できるよう、バックでおりるとよいことが分りました。社会福祉協議会の方が優しく教えてくださいました。

高齢者疑似体験

ガイドヘルプ体験

車椅子体験

装具の付け方を教えていただきました。体がとても重かったです。お世話になっているいきがい交流センターの方の気持が少し分かり、楽しく交流してくださったことに感謝しました。

ふれあい教室紹介

＊絵手紙　講師　嶋本　武子

「人生は寄り添いながら生きている」先生の言葉です。お洒落でお元気な先生に教えて頂いています。仲間はいつも十数人、明るくて心豊かな方々ばかりです。感じ方、描き方は、みんな違いますが、善さを認め合い美しいものを追及しています。楽しい２時間、いつも心待ちにしています。皆さんもご一緒に挑戦しませんか。参加をお待ちしています。　井上弘子

＊コーラス　講師　岡田　啓子

コーラスの楽しみは…花さく春、夏の海、紅葉の美しい秋、寒い冬など…四季が思い出される小学校唱歌、四国全土に流れるふるさとの色など歌ってみませんか。発表は、しみず祭、清水地区の文化祭、若い方も年老いた方も口を動かし声を出す。リズムのある歌を聴くことは、心身の健康を保つために必須です。
和家眞利子

＊茶　道　講師　上松美千子

私達茶道教室は、月２回８名で上松先生にご指導頂いています。抹茶は高級品を使用、茶菓子も毎回お世話係さんが色々工夫して買ってきてくれて楽しくお稽古しています。四季によっていろいろなお点前があり、とても勉強になります。興味のある方は、体験に来てください。　真鍋紀代美

＊フラダンス　講師　川中　寿美

ゆったりとしたハワイの音楽に癒され、ハワイの海や風、花の香りや虹の輝きを感じながら、川中先生のご指導の下、楽しくレッスンしています。ゆったりとした動きですが、脳トレと足腰の筋力アップ、心も身体もリラックスして、笑顔でフラをご一緒しましょう。　中村真弓

地域福祉と学びの拠点
～やさしさボランティアリーダー～

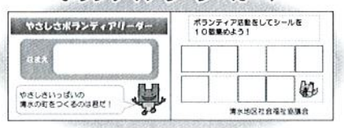
時代の変化とともに、核家族化が進み、親戚や地域とのつながりが希薄になりがちな昨今です。

このような中、清水小学校の子どもたちは、地域福祉拠点が校内にある強みをいかし、入学時から地域の一員としての力を育んでいます。

清水地区社会福祉協議会では、子どもたちが清水地区のやさしい町づくりを担う一員であるという「気づきのある授業」などに参加しています。その一環として、子どもたちに「地域の担い手の一人である」ことを意識づけるため、５年生になると『やさしさボランティアリーダー』の任命をしております。これは学校内外で誰かの手伝いなどをすると、シールが貰えるという仕組みです。気持ちを行動に移すことにためらいのある子どもが一歩踏みだしやすいようにしました。任命を受けたボランティアリーダーがいつもよりちょっとだけ勇気をだして、周囲の人に声をかけ、行動してくれることを期待するものです。

子どもたちも「地域の担い手の一人」です。学校内外でのボランティアを通じて成長する様子を温かく見守っていただければ幸いです。

ボランテイアリーダーカード



まだまだ現役です！

菅田　顕

喜寿をすぎてもまだ、私は教育関係の組織の中で悪戦苦闘の毎日を過ごしていたが、傘寿を控えやっと、心身、時間等でゆとりが見えてきたので、念願だった清水地区の中で何かをと考えていた矢先に、「ロシア兵墓地保存会」で奉仕活動をしてはとの依頼があり喜んでお引き受けすることにした。

今、この「ロシア兵墓地」を三十八年間絶えることなく毎月の第二土曜日の午前中に、生徒会を中心にして、清掃奉仕活動に精を出しているのが、松山市立勝山中学校である。

又、「ロシア兵墓地保存会」に属し、墓地清掃奉仕活動の一翼を担っているのが、私達九名の「木曜会」である。

清掃奉仕活動は毎月の奇数週の木曜日の午前中に活動している。

ボイスマン大佐の像を始め九十八基ある墓標の周辺を心を込めて清掃する。

何時も清掃後の墓標は故国北を向いて凛とした佇まいでいる。

その姿を清々しい気持ちでもって、何時も墓地を「もてなしの心」で紡いでいる。

語り継ぎたい ふるさと松山の心 6
「志をはたしに」ふるさとに帰った先人たち

文部省唱歌の「故郷」の歌詞は、「兎追いしかの山小鮒つりしかの川…」であり「いかにいます父母、つがなきや友がき」の望郷をうたったものです。

この歌詞の中で、私が大嫌いなものがあります。

それは「志をはたして　いつの日にか帰らん」です。

都会に出て行ったひとたちが、「志をはたして」老後を、田舎のふるさとですごしたい。

それは、ちょっと、虫がよすぎるのではないかと私は思ってきました。

「志をはたして」ではなく、「志をはたしに」ふるさとに帰る、そういうふるさと教育をしたいと願って、私は今から五十五年まえ、ふるさと中島の教師になりました。もちろん、都会に住もうが、田舎に住もうが、居住権は保証されており本人の自由です。

また、どんな職業を選択しようが、自由を保証されているのが、今日の社会です。

「志をはたして」都会にとどまろうが、「志をはたしに」ふるさとに帰ろうが、それはその人の生き方であり、どれが望ましい生き方かは分りません。

しかし、私は「志をはたしに」にふるさと松山に帰ってきた人が好きです

たとえば秋山好古。

陸軍大将までつとめた好古は、ふるさとの北予中学校（現、県立松山北高等学校）の校長になってほしいという依頼を、よろこんで引き受けました。

世界に役立つ後輩を育てたい、そしてふるさと松山のために尽くしたいという「志をはたしに」好古は、敢然と松山に帰ってきたのでした。

たとえば八木亀太郎。

松山商科大学（現、松山大学）教授。昭和四十四年から五年間、名誉学長として大学の発展に努めた。

子規や山頭火の俳句を英訳し、世界に広めた人。

亀太郎は「語学の天才」と言われ、特にペルシヤ語研究の第一人者でした。

しかし、彼は若くして松山に帰り、松山商科大学の教授になりました。亀太郎の死後、亀太郎の机のまわりに散らかっていた雑書きの中から、次の文がみつかりました。「父上様、私は一生涯、あなたの学と徳を仰ぎつつ生きえましたことを感謝いたします。息三春」

（息とは息子、三春は亀太郎の雅号）

亀太郎は父の大好きなふるさと松山に帰り、父への恩返しを、その生涯をかけて、成し遂げたのでした。

二人の松山の先人の例をあげました。

「志をはたしに」ある目標を持ち、その願いの実現のためにふるさとに帰る、そういう先人たちが、現在の松山の文化を築いてくださったのです。

北予中学校長時代の秋山好古さん

砥部の榕場にて揮毫中の八木亀太郎さん

元松山市教育委員長
元松山市教育研修センター　顧問
金本　房夫